

「柏崎の水」

市野新田 大沢の不動滝・螺掛の滝 かいかけ

修験道の霊地という伝承がある兜巾山は、鵜川地区と上越市の境界にそびえ、ここから湧き出た水は鵜川の源流となる。市野新田の山中に流れる不動滝もその源流のひとつである。

不動滝への道のりは、市野新田を西方向へ抜け、細く続く山道を登り、駐車場から遊歩道を5分ほど歩く。周囲のせせらぎが聞こえる遊歩道は階段状に整備されており、市野新田の集落と小村峠方面の山々を見渡すことができる。遊歩道を登りきると広場になっており、滝の説明などが書かれた案内板、テーブル、ベンチが設置されている。広場の奥に見える滝は、いくつもの段差をなだらかに流れ落ちる。うっそうと緑が生い茂っているため全貌を眺めることはできないが、案内板の説明文によれば30mもの落差がある。流れる水は、ブナ林で蓄えられた水が、輝石を含んだ火成岩で濾過され湧き出たものという。また、滝の落ち口には岩屋があり不動明王が祀られていると伝わる。



大沢の不動滝（矢印の場所が滝）

不動滝の真上には螺掛の滝がある。この滝の名前の由来については「越後国刈羽郡女谷村梅本院略縁起」に次のように記されている。

しょうとく
称徳天皇の時代(770年頃)、この地を訪れた
ゆげのどうきょう
弓削道鏡は、不動明王の霊場である兜巾山に登った。道鏡が山中を見回すと滝があったので、法螺貝を鳴らして客僧を呼び集め、陀羅尼のお経を読んだところ、不動明王が滝上に現れた。行者が滝の岩に法螺貝を掛けてお経を読んだので「螺掛の滝」と呼ばれるようになった。

「鵜川の話」では、ここは修験者が荒行で打たれた滝ではないかと考察している。明治18年頃には、半田村の神主が里人の幸を祈ろうと、7日7晩この滝で荒行を行い、兜巾山の山頂に螺掛神社を創立したという。兜巾山における信仰については、こうした記録や伝承が少なく、謎に包まれている。山中には、信仰があったことを示す建造物の痕跡と思しきものが残っているとされるが、伝承との関わりは不明である。



参考にした本

- 「鵜川の話」高橋義宗 著(224 タカ)
- 「くろひめ」鵜川小学校くろひめ編集室 編(382 ウカ)
- 「鵜川そぞろ歩き」鵜川総合研修センター(224 ウカ)
- 「柏崎市伝説集」柏崎市教委員会 編(388 K キヨ)
- 「史談うかわ」鵜川郷土歴史研究会 編(224 ウカ)